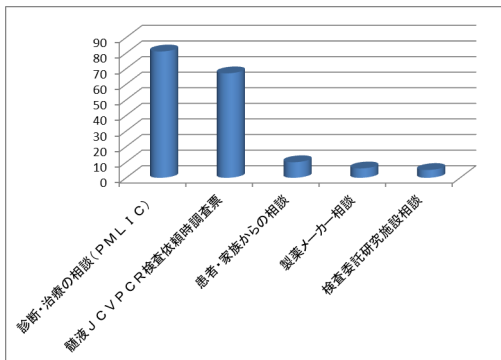


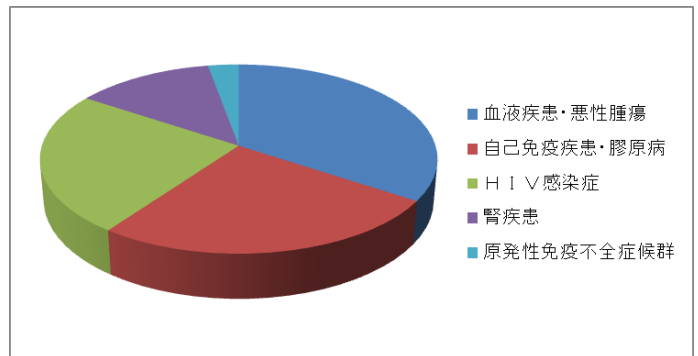
## 本邦発症PML患者に対する新規サーベイランスシステムの検討

研究分担者：がん・感染症センター都立駒込病院脳神経内科 三浦義治  
 研究協力者：がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 池内和彦  
 研究協力者：初石病院神経内科 岸田修二

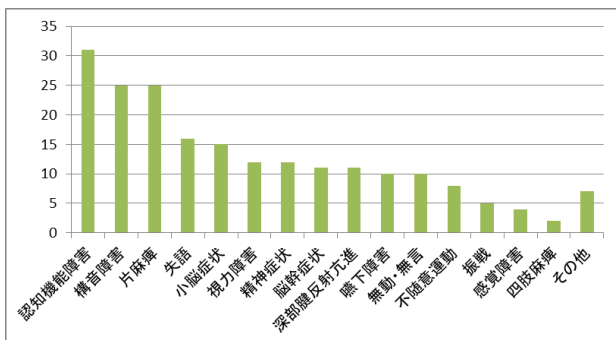
1.PML情報センター業務件数



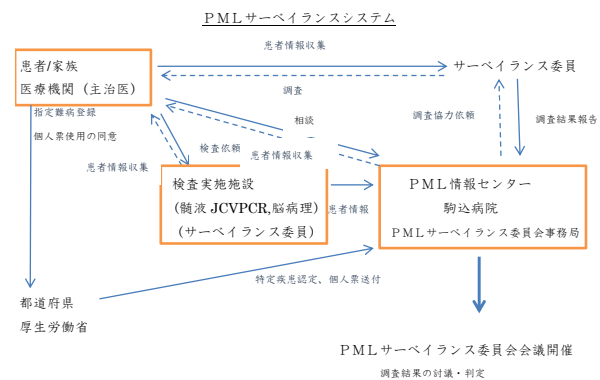
2.基礎疾患



3.臨床症状



4.新規サーベイランスシステム



## 解説

1. 診断基準・重症度分類策定・改訂のための本邦発症進行性多巣性白質脳症患者の疫学調査を行い、平成27年までに国立感染症研究所への髄液JCVPCR検査依頼時症例調査から67件および駒込病院内PML情報センターへの相談時の症例調査から81件の症例情報が集積された。
2. 基礎疾患はHIV感染症は25.4%と少なく、血液疾患・悪性腫瘍、自己免疫疾患・膠原病が多かった。臨床症状では認知症や構音障害を呈する症例が多かった。大脳萎縮を呈する症例が26.9%、髄液蛋白上昇が47.8%、髄液細胞増加が16.4%と目立った。
3. 新規サーベイランスシステムでは平成27年度内にPMLサーベイランス検討委員会を開催し、PMLサーベイランス委員会事務局を駒込病院内に設置して複数施設にサーベイランス委員を委託し、より有効な情報収集システムを確立してゆく。